

～地域とつながる、安心と笑顔の拠点を目指す

協働による企業の取組み～

企業：NOK 株式会社福島事業場（福島市）

HP：<https://www.nokgrp.com/>

<NOK 株式会社福島事業場の紹介>

～ 可能性を技術で「カタチ」に ～

NOK 株式会社は 1941 年に設立され、創業 85 年目を迎える製造業メーカーです。主要製品である「オイルシール」などの密封部品は、自動車やスマートフォン、家電など、社会の不可欠な領域を支えています。

福島県内には福島市（福島事業場）と二本松市の 2 つの拠点を展開しています。福島事業場が所在する福島市永井川地区は、かつての田園地帯から、周辺の宅地開発が進み、現在は工場が住宅街に囲まれています。この環境を活かし、住民の方々と「顔が見える関係」を築くため、NOK 株式会社は「地域に信頼され、愛される企業市民」としての地域貢献活動を推進しています。

<NOK こども食堂 ～まんまるひろば～設立経緯>

2025 年 10 月、NOK(株)の社内食堂に「NOK こども食堂 ～まんまるひろば～」はオープンされました。社員食堂をリニューアルすることをきっかけに、従業員の活気あふれる場所を作る意識改革への新たな一歩にしたい。さらには、人と地域にひらかれた出会いとつながりの場づくりをコンセプトに、社員食堂を活用したこども食堂の取組みを企画しました。

同社福島事業場のトップメッセージとして、「いろいろとハードルは高いけれど、地域の人も集える場所にできたらいいな。外から食堂がオープンに見通せて、興味がわき、一般の方でも誰でも『なんだか楽しそうな場所だな』と思ってほしいとの強い思いがその背景にあります。

同社において、これまでもフードドライブとして災害備蓄品の缶詰を子ども食堂へ届けるといった間接的な支援は行っていましたが、より顔が見える直接的な支援を実現する取組みです。

<NPO との連携・協力について>

一方で、子ども食堂をしたいものの、ノウハウがない中、どうしたら運営できるのかを福島市役所企業振興課に相談したところ、福島市子どもの居場所づくりバックアップ本部を受託している「特定非営利活動法人ビーンズふくしま」を紹介されました。

長年、子ども食堂を手がけ、子ども、親、学生ボランティア、地域、企業など多様な人々がつながる子ども食堂を運営している同法人の江藤氏から運営のアドバイスを受け、情報共有しながら、NOK子ども食堂～まんまるひろば～の具体化を推進し、運営が実現されました。

<運営方法について>

- ・ 毎月第4木曜日（16:00～18:30）に開催
- ・ 近隣の小学校の生徒にチラシを配布
- ・ 同チラシのQRコードにLINEのおともだち登録 → 開催の通知等
- ・ 福島市の「子ども食堂運営団体」として登録することで情報収集を実施

<子ども食堂の実施内容>

- ・ 宿題のサポートや自由時間（子どもの遊び）
- ・ 「オイルシールとは？」などNOKの自社製品を用いた実験コーナー
- ・ 社内の体育館を使用して、輪投げ、ストラックアウトなどのレクリエーションの実施
- ・ 12月にはクリスマス会を実施
- ・ 調理に関しては、同社の社員食堂の運営元に協力をいただいている

<ボランティアの協力について>

- ・ 社内公募で集まった約30名の従業員ボランティア
- ・ 一般社団法人CARNIVAL WORKS等の高校生・大学生ボランティア

<ひろがる協働の輪>

- ・ レンタルサポート福島（ダスキンレントオール）様：体育館で使う遊具の無償貸出
- ・ 株式会社ベジフル様：子ども食堂で使用する食材の無償提供
- ・ 株式会社コンノ様：コーヒーのドリップ体験の提案

<地域との防災支援協定について>

同社が立地している永井川地区の区長や副区長とは、日常的にコミュニケーションの機会を持つなかで、過去の大雨の際、近くを流れる濁川が氾濫し、水害被害に遭われる住民の方が多数いたと

の話伺いました。

一方、永井川地区の指定避難所となっている信夫中学校や大森小学校までは少し距離があり、高齢者にとっては、いざという時の避難に困るという話もありました。

何か NOK にできることはないかという対話の中で、体育館のリノベーションも重なっていたため、「体育館という大きな場所や食堂、会議室もありますから、一番近い避難所として NOK にどうぞお越しください」という提案をし、地域住民の避難先へ自社施設を開放する防災支援協定の締結につながりました。

<合同防災訓練の実施>

いざ有事の際の手助けだけでなく、平時でも何か一緒にできることはないかと検討し、25 年 11 月に永井川地区での合同防災訓練を実施しました。当日は、地区支所や消防署の分署長にも参加いただき、地区の住民約 50 名の参加がありました。

<合同防災訓練の実施内容>

- ・ 防災講話（内水と外水（洪水）の浸水の違い）
- ・ ハザードマップを確認、避難経路の再確認
- ・ 避難所となる体育館、トイレなどの案内
- ・ 簡易型避難テントの組み立て、エアマットの取り扱いを学ぶ

くことと思います。これからも、まんまるひろばをプラットフォームに子ども達の笑顔と温かな地域の眼差しが増えていくことを願っています。



<学生ボランティアのコメント>

回答：学生ボランティア3名

Q.NOK こども食堂 ～まんまるひろば～にボランティアとして関わってみてどうですか？感想などや期待することをお聞かせください。

- ・ 他のこども食堂の取組みにもボランティア参加していますが、NOK こども食堂は、他のこども食堂とは異なり、食事の準備や従業員のボランティアも多いことから、直接、子どもに向き合える時間が多いと感じています。参加している子どもすべてに対して、目を配ることができ、一人ぼっちになっている子どもがいないことがいいなあと感じています。
- ・ 体育館が広く、子どもがのびのびと遊んでいるのを見ると楽しくなります。
- ・ ボランティアで、さまざまな交流が広がることが嬉しいです。他の学生や、学年を超えた出会い。また、以前こども食堂のボランティアをしていた先輩が帰省の際に、参加してくれたりするので、そのような新しい出会いもあります。新しい交流、学びの大切な機会です。
- ・ 勉強を教えるにしても、友達に対してではなく、子どもに対しての教え方は違うため、どういう風に説明したら分かりやすいかなと考えながら教えています。
- ・ 一過性のイベントではなく、継続している取組みに参加できることが、自分にとって、とてもいい経験となります。1回限りのボランティアだったら、参加してもあまり意味がないかなあと思っています。最初は緊張して、しんどいけれども、続けていけば世代を超えた知り合いができたりするからです。
- ・ 私は、学校の養護教諭になることを目指しています。今まで、あまり子ども接する機会が少なかったので、いろいろな子どもと接する機会があることが楽しいです。また、災害の際に、学校が避難所になることが多いと思いますので、将来、学校に関わる時のためにも、防災訓練なども興味があります。
- ・ 災害の時に、ペットを飼っている人も避難所に来られる取組みづくりやペットの保護に興味があります。

Q.学生としての視点から、このような地域貢献活動をしている県内の企業をどう思いますか？

- ・ 就職活動での企業を調べる時に、子ども食堂の取組みなど地域貢献活動を応援しているかどうかを確認します。地元で貢献している企業の方が安心して勤めることができるからです。
- ・ NOKの子ども食堂にボランティアとして、関わっていますが、今回の機会で、子ども食堂を始めたきっかけや思い、連携した経緯などを知ることができてとても参考になりました。

<本連携事例から学ぶポイント>

- ・ 今回のNOK株式会社福島事業場における自社施設を子ども食堂や地域防災に活用する取り組みは、地域住民とのエンゲージメントをより高める効果が期待できます。
また、「子どもの笑顔」「地域防災を高める」などの関心の高いテーマを、企業、NPO、地域住民のつながりの真ん中に据えることにより、各セクターが自然とつながる仕組みを構築した事例となります。
- ・ 子ども食堂などのNPO活動に社員が関わることで、社員自らの行動を変化させるきっかけや成長の機会を得られることが期待されています。定型化している通常業務のアプローチとは異なる様々なニーズへの対応やコミュニケーション能力が求められるためです。
また、地域活動に積極的に参加することによって、自分たちの仕事が、地域社会でどのように役立ち、見られているのかが肌で感じる機会となる可能性もあります。

<まとめとして>

企業が実施する地域貢献活動をNPOが持つノウハウによって実現した事例となり、企業とNPOとの連携・協力の新しい形となります。さらに、運営するなかでの利用者や地域住民の変化、気づきをNPOと共有することでNPO活動の重層的な支援も期待できます。

今後、企業が実施する福利厚生や社員ボランティアにおいても同様の連携・協力がひろがることを期待します。